

幼 兒 教 育

第二十卷
第十號

大正九年十月十五日發行

託兒所の保母

東京女高師附屬幼稚園主事 藤 井 利 譽

託兒所の保母は新しき特別な素養がなければならぬか。託兒所の爲すべき新しき仕事とは何か。

託兒所の保母は年齢に於て異なる、二歳又は三歳から六歳までの幼児、又は生れて程立たぬ嬰兒の教育を受持つ。託兒所は主に細民部落、下級労働者住宅區域等に設けらるゝから、保母の任務として、疾病、不潔、榮養不良、又は不良の習慣を有する幼児を取扱ふことが多くなる。然るに現在の幼稚園の保母は大抵は是等の事情を取扱つて居る。託兒所の保母は同情的、母性的本能を有し、幼児の身體的・精神的發達につき注意深く研究を爲し、幼児の健康不健康を察知する修練を積まねばならぬ。といはるゝことも聞いて居る。又保育者としては教育の理解、文學

自然研究音楽圖畫及び手技等の研究をなさねばならぬといふこともあるが、しかし是等は皆幼稚園の保母に對しても要望せられることであつて、幼稚園の保母なり、小學校の教員の常に實行して居るところである。若し斯の如きことを以て託兒所の保母に對する要求とするならば別に新しいことも何もない。從來の保母でも又小學校の教員でも、託兒所の保母は務まるものと思ふ。然るに動もすると、從來の保母や教員は組又は級の管理の術を學んで居るが、幼児の個人的發達を進むる方法については甚だ迂遠なるものがある。室内に多數の幼児を押込めて之を靜肅に管理する方法を知るも、屋外の新鮮なる空氣中に幼児の潑瀾たる活動を爲す指導を忘れてゐるものもある。惡習慣は三ツ子の中より養成せらるゝことを

閑却して日々悪しき習慣を形成する機會を造りつゝあることに氣の付かぬものも鮮くない。斯の如き傳統的な形成に嵌まつた、若くは怠業的氣分の湛ふ幼児教育の方法を以て満足するならば、將來の保姆の素養としては大いに新しきものが加はつて來ねばならぬ。

今日進んだ保姆であつて、從來の學級教授式の保育方法をとるのはない、彼等は十人に對しては十色の方法を以て個性を導きつゝある、故に一人の保姆の擔當する幼児數は段々其の數を減じて居る。英國のミス、マクミランの幼稚園では六人乃至七人の幼兒を分團として盛んに屋外に於て保育をして、幼兒も保姆も自由に活動して居る。これと同様の方法を以て託兒所は其の受持兒數を最少限度に少くして屋外の保育を獎勵し幼兒個性の活動を助けねばならぬ。従つて保姆の任務は變化の多い忙はしいものとなる。特に終日幼兒の在園するところにあつては幼兒の睡眠衣食の世話内外の空氣に對する注意等幼兒發育上一切の衛生上の知識を有し其取扱に熟練せねばならぬ。

幼兒が善良な習慣を造くる爲めには非常な忍耐を

要する。保姆は幼き手がエプロンのボタンを外す間之を待ち且つ注意せねばならぬ。木鐸が取り運ばれ又は晝本の取り片付の出來るまで見て居らねばならぬ。茶碗や箸が備へられて辨當の用意をするのを看視せねばならぬ。又手洗、齒磨、髮梳等清潔の感若くは清潔を好む習慣を養ふことに注意せねばならぬ。其の他、御話の仕方や遊戯の指導等よく幼兒の自然的發展を促すべき方法を盡さねばならぬ。實に保姆の目や耳は幼兒の一舉一動を洞察して誤たぬ程鋭敏明確であるを要する。さてかやうな修練はどうして得られやうか。餘程困難なことである。普通の練習所や學校などでは恐らく出來ぬであらう。併し此難問に對する答は一つである。即ち、「託兒所に於ける幼兒の中から」といひたい。併し日常の經驗は貴いが斷片的たるを免れない、宜しく目的と原則と關聯せしめて之を統制する必要がある。實驗は原理によつて光明が與へられる。

身體衛生上の原理につきては勿論醫學の研究に待ねばならぬ。併し純粹の學理の研究を單獨にしたところで効果がなない、幼兒の身體の研究は臨牀的に若くは實驗的に學ぶを得策とす。例へば幼兒の體重、

食物衣服を初めとして、呼吸睡眠等に關して、幼兒の衛生上の研究を實驗的に學ぶのである。英國には、中央幼兒養護所 (Infant welfare Centre) がある。此處は託兒所保母の練習として適當の場所である。更に英國では衛生視察員と同伴して家庭生活の狀況を調査して居る。

幼兒研究、言語練習、體育、その他園藝音樂手工等は師範學校其の他の練習所に於て教授を受けることを得るが、是等の研究は實際託兒所に働くもの、實際的の要求に合せなくてはならぬ。託兒所保母の研究會を設け、心理學者、醫者等を顧問として、實際につき幼兒教育の比較研究を爲すも可である。遊戯、音樂等の堪能者を聘して託兒所保育に適切なる講習を開く様にもしたのである。更に進んでは、幼兒生活と其の環境とを知る必要があるから、社會學的研究もなければならぬ。併しこれは社會學其の物を學べといふではない、寧ろ生きた社會其の物の實相を能く知るやうにしたいと思ふ。英國の師範學校で社會研究といふ科を置いて、細民部落の研究に従事せしめてるのを見たことがある、それは社會學の序説を少し計り授け、他は部落の實地に臨みて調

査を爲し研究をするのである。幼兒教育につきてもかくありたいとおもふ。幼兒の住する世界を熟知せずして適切な保育を施すことの出來ぬことは言を待たない。

一體、幼兒教育者に對する社會の要求は餘りに低い「高等子守」位にしか思ふて居らぬ保母たり得るものは女學校の卒業者なら誰れでもなれる。准教員でも保母になれる。併し近代教育の進歩につれ、幼兒保育の方法は日に月に進んで來た。其の研究も亦漸く深くなつて居る。保母の資格や修養が今日の如く低くては到底現代教育の趨勢に伴ふことが出來ないのみならず、幼兒保育の効果が擧がるものではない特に今後漸く盛んならむとする兒童保護問題に伴へる託兒所に働かんとするもの、如きは、從來の保育法の錯誤を破つて茲に新しき賢明なる教育的方法を建設して行かねばならぬ。幼兒及び其の周圍の狀況の劣悪なるところに於ては、尙更人格の崇高な、識見のある、伎倆の勝れた保母を要する。近時英國あたりで保母の養成に非常に力を盡して居る。保母は少くとも他の學校即ち小學校の教員と同等の修練を積ましめねばならぬといふ聲を高くして居る。我が

國の現状は保母の養成は師範學校の片手間に行はるるものが、最上である。多くは急場の間に合せに過ぎぬ。託兒所に働く保母の養成の如きは、今後如何にすべきであらうか、これを單に一二の慈善家に任せて置いて可なるか、託兒所の施設の擴張に伴ひ、此の問題は必ず起らねばならぬと思ふ。少くとも中央に模範的養成の機關を設け地方に其の範を示すと同時に首腦人材の供給を圖らねばならぬと思ふ。

序に一言して置くことは託兒所の使命である。今、英國師範學校協會の報告を摘録して説明に代へよう。託兒所の使命は三つの見地から述べることが出来る、(一)幼兒の身體的健康を増進せねばならぬ。

○あ さ が ほ

これが爲めには新鮮な空氣、適當な睡眠、自由の運動を爲すに足る場所を有すること。健康、榮養、清潔に對する注意を充分にし、又其の正しき習慣を形成すること。而して生活は露天生活たらしめ、室内生活たらしめぬこと。沐浴所を設けること。食物供給の設備と衛生設備を爲すこと。(二)心的發達を爲さしめむが爲には遊具を備へ、遊戲の機會を作り、庭園等に於て幼兒に相應せる經驗をなさしむること。(三)託兒所は小なるを可とし、且つ家庭と近距離にあるがよい。

M 子

夏休みになる時に、幼稚園から鉢のあさがほを貰つてかへつた。これは幼兒と一緒に種子をまいて毎日水をやり可愛がつて育てたもので幼兒も皆一鉢づゝかゝへてかへつた。先生もおうちへもつていらつしやるのと催促されたので、どんな色の花が咲くか休み後に御話し合ふ事を約して別れた其鉢である。この鉢は、お母さまのものと定め、外に苗から仕立たのや後から買ひ足した二三の鉢とならべて、花の咲くのを待つた。赤い花のは姉のあさがほ、白いは弟のもの、紫は父、扱ては祖母のと、姉弟は、てんでに持主を定め、毎朝花を見るのをたのしみに起きるのである。幸に鉢が少いので毎朝十以下の花が長い間一朝もかゝさず咲いた。早く花を見ようと起る二人は、今日は九つ、今朝は八つと大喜びの中にも姉は六歳で、來春學齡に達する事とて數の觀念もやゝたしかに、數へる事に興味を持ち、けさは五つ咲いた、そうでせうおばあさんが二つに私のが三つだから、「今日は坊やのが四つに母さんのが三つで七つ咲いた」、「あら二つしぼんだ、あと五つ開いてる」、「あの白いのが一番大きくて、私の赤が一番小さい」など、數と量との觀念が自然に明かになつた、(三三五頁へ續く)